

令和7年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○笑顔があふれる学校…児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○元気で活力ある学校…児童が健康・安全・安心にすごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○創造力のある学校…児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。
前年度までの本校の現状	成果	江戸川区教育課題実践推進校として教育課題「魅力ある学校づくり」に取り組み、不登校児童の減少や児童の学習意欲を向上させることができた。また、PTA、おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。教育課程全般において、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができた。	課題	児童は自己肯定感が高く、やる気や意欲があり、全国学力調査の結果もCD層は令和元年度80%代から60%代まで減った。しかし、正答率は都の平均より10（国語）～12（算数）ポイントほど低い。診断テストの結果などを分析し、児童一人一人のつまずきを克服しながら、「一人も取り残さない」学力向上を目指していく。また、昨年度、学校図書館の活用に対する数値目標が達成できていないため、図書を使った調べる学習の充実を図る。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	<学力の向上> ○「江戸川っ子study week!」の実施・改善や、学力定着度調査の実施・分析や、補習の実施などによる指導の充実	・放課後学習の実施…4～6年生(30回) ・各学期に東京ベースックドリル診断テストまたは、江戸川区学力定着度調査の実施及び結果を受けての指導の工夫の検討・実践 ・「江戸川っ子study week!」（家庭学習期間）の実施：年3回	・2年生以上の東京ベースックドリル診断テスト、江戸川区学力定着度調査の平均正答率が、70%以上または、1学期より5%アップ	B	B	B	・6年生の全国学力調査では、算数のCD層が令和元年度の80%代から今年度55%まで減り、大きく改善された。平均正答率は、国語70%（全国+3%）、算数62%（全国+4%）、理科59%（全国+2%）と、3教科とも全国平均を上回った。 ・4月と7月に行った東京ベースックドリル診断テスト（2,3,6年生）、江戸川区学力定着度調査（4,5年生）の平均正答率は、2年生が3%アップしたが、その他の学年では、2～7%ダウンした。しかし、6年生は昨年度よりも8%ほどアップしており基礎学力は定着度していると考えられる。 ・2,3年生の正答率は70%を達成しているが、4年生以上は52～66%に留まっている。今年度の学習内容が定着するよう、定期的に既習内容の復習をするなど学習のさせ方に工夫が必要である。 ・児童アンケートでICTの活用に関する肯定的な回答は9割であり、上手に使いこなし、学習意欲が高まっていることが分かった。 ・1・2学期に家庭学習期間を1回ずつ実施し、家庭学習カードの提出は9割以上を達成した。家庭の学習に対する関心は高く、協力的である。	A	・タブレットの積極的活用で、民間のリソースなど上手に活かしている。児童の意欲向上の取り組みがうまくできていると思う。 ・平均に届くことだけでも大変なことだが、大幅に学力が上がった背景に、先生方の愛情、きめ細やかな個別対応が感じられた。日々の積み重ね、6年間の毎日の学習の取り組み方が良い結果につながったと思う。	B	・江戸川区学力テストの正答率は、6年生の国語は12%、算数は0.9%全国平均を上回った。一方で3～5年生は、国語・算数共に全国平均を回っているものの、4年生の算数では、A・B層が昨年度17.1%から38.6%にアップした。 ・1月に実施した東京ベースックドリル診断テスト・江戸川区学力定着度調査の平均正答率は、2年生87%、3年生76%で目標を達成した。6年生は1学期から10%アップし目標を達成した。4、5年生は、目標の70%に満たなかった。しかし、授業が分かりやすいと肯定的な児童は9割を超えている。学習が分かって楽しいという意欲を持続させつつ、個に応じた復習に取り組みせ、既習内容の定着を図る。	A	・第3学年～第4学年の結果において、東京都、全国との平均の差が10ポイント程度ある。 ・授業が分かりやすいと肯定的な児童は9割を超えているため、学習が分かって楽しいという意欲を持続させつつ、個に応じた復習に取り組みせ、既習内容の定着を図る。 ・九九マスターは、3年生以上で100%合格を目指す。	
	○外国語活動・外国語学習の充実	・4年生の社会科見学でTGGを利用。 ・ハローマスターの実施 ・外国語講師による授業の充実	・児童アンケートで外国語活動や学習に対して肯定的な回答8割	B	A	B	・今年度も4年生は社会科見学でTGGを利用した。ジェスチャーや知っている単語で気持ちを伝えようとする態度が育つきっかけとなり、普段から外国語の友達やALTとの積極的に関わる様子が見られている。 ・児童アンケートで外国語活動や学習に対して肯定的な回答は7割に留まっている。1月に予定しているイングリッシュウィークやハローマスターの活動で、楽しく外国語に触れる機会とする。	A	・TGGの利用経験は、大変価値があり、大人でも英語に対して抵抗があるが、今の児童たちはストレスなく受け入れることができている。 ・積極的に英語に触れる機会がある環境が良い。6年生の発表では、堂々と英語のスピーチをしていて素晴らしい。	A	・1月に実施したイングリッシュウィークでは、ナイジェリア出身の講師から英語やジェスチャーで食文化や自然を教わり、楽しくコミュニケーションをとることができた。 ・ハローマスターの活動では、外国語に触れながら楽しく異学年交流をすることができた。	A	・来年度もALTを活用した授業の充実を目指して、担任、ALT間で綿密に連携し、学習進度や扱う教材について情報共有を図っていく。	
	○読書科の更なる充実	・図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業…各学期1回以上（12時間以上） ・学校図書館支援員、図書ボランティアとの連携による学校図書館の整備の推進 ・図書館を使った調べる学習コンクールの参加	・児童アンケートで学校図書館の利用に肯定的な回答8割 ・3年生以上で調べる学習コンクールへの参加8割	A	A	A	・学校図書館支援員や図書ボランティアと連携し、図書館の整備や、図書館の使い方、図書の紹介など、全学級で図書を活用したり、図書に触れたりする授業と、朝読書の機会を設けることができた。 学年の学習進度に応じて、図書の選定を支援してもらうなど、連携がとれている。 ・児童アンケートで学校図書館の利用に肯定的な回答8割、3年生以上で調べる学習コンクールへの参加8割は、共に達成した。	A	・自主的に調べ、それをレポートする力は社会に出ると、とても重要なスキルになるので、それを小学校の時からやれるという事はとても素晴らしい。 ・校内にも絵本のディスプレイがされているなど、環境が整っている。ボランティアさんの活躍もあり、児童が本に親しみをもっている。	A	・児童アンケートで学校図書館の利用に肯定的な回答は8割に留まったが、学校図書館支援員と連携し、図書の購入を計画的に進めたことで書架が充実し、児童の貸出冊数が増えた。授業連携もできている。 ・各学年図書館を活用した探究的学習への取組みが定着し、調べる学習コンクールの作品の内容も充実してきた。	A	・各教科で計画的に図書を活用した学習ができるように学校図書館から発信していきたい。 ・児童の読書習慣をさらに付けていくために、読書月間を活用し、働きかけていきたい。	
	○ICTの活用	・タブレットやオンラインドリルを授業や家庭学習で活用 ・教員向けのICT研修	・児童アンケートでICTの活用に関する肯定的な回答9割	A	A	A	・教員・児童ともに、タブレットを授業や家庭学習で日常的に活用している。児童アンケートでも、ICTの活用に関する肯定的な回答9割を達成できた。	A	・リスクに関する説明もできており、有効活用できている。 ・子供を信頼し、正しく使用方法を伝えるために、しっかりと状況把握できている。	A	・ICTの活用に関する肯定的な児童は9割を超え、学習や委員会活動、学級での係活動など、日常的に使いこなしている様子が見られる。また、中学年以上では外部講師によるSNSの安全な使い方・マナーについて学びセーフティー教室を実施し、いじめや犯罪予防に努めている。	A	・学習の中で、ICTの悪い面ばかりではなく、良い面をしっかり伝えていくことが素晴らしい。有効に活用できる子供を育てていきたい。	・教員も児童もICTを授業に活用できていく。今年度、iPadが新しくなったので、引き続き効果的な活用に向けて取り組みを続けていく。
体力向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ○体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・学期に1回のなわ跳びチャレンジウィーク（なわ跳びマスター）の設定 ・江戸川っ子なわ跳び出前授業の実施	・なわ跳びに取り組む児童9割	A	A	A	・1学期、2学期になわ跳びチャレンジウィーク（なわ跳びマスター）を実施し、全学級で江戸川っ子なわ跳び出前授業を実施し、全校でなわとびに取り組むことができた。 ・3年生は、運動会の表現でもなわとびに取り組み、集団でリズムに合わせて跳ぶ楽しさを味わうことができた。	A	・何よりも児童が楽しんで取り組んでいることが良いと思う。様々な種目の運動ができること、なお良い。 ・楽しく取り組めるよう工夫されている。	A	・学期に1回のなわ跳び週間を設定し、8割を超える児童が縄跳びに取り組むことができた。縄跳びに親しむ児童が増えた。 ・持久走記録会に向けての練習や体育の研究授業（年3回）を通して、児童も教員も知識・技能が高まった。	A	・なわ跳びなどの取り組みは、今後とも続けてほしい。	・来年度は縄跳びだけでなく、その他の運動やコーディネーショントレーニングなどを取り入れ、更なる体力向上を目指す。
	・長縄集会…年2回	・児童アンケートで運動に関する肯定的な回答9割	A	A	A	・10月は長縄集会に向け、どのクラスも校庭で元気に体を動かす様子が見られた。 ・児童アンケートで運動に関する肯定的な回答9割を達成できた。	A	・体力向上につながっていると感じる。	A	・運動に関する肯定的な児童は年間を通じて9割を超え、長縄大会に向け各クラスが自己ベスト更新を目指して練習を重ねる様子が見られた。 ・目標をもって取り組んだことで、クラス経営にも生かすことができた。	A	・得意でなくとも、体を動かすことが好きという気持ちを持っている様子が見られて素晴らしいと思う。	・来年度も引き続き全クラスで長縄に取り組む、各学級の団結を深められるようにしていきたい。	
教育の推進 共生社会の実現に向けた	<特別支援教育の推進> ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導教員や特別支援教室専門員・S・C・心理士・日本語指導員の活用、担任との連携…各学期授業参観・適時 ・授業のユニバーサルデザイン化の推進 ・個別的教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	・児童アンケートで学校生活に関する肯定的な回答8割 ・学級崩壊なし	A	A	A	・ユニバーサルデザインの板書作りについて教員のOJT研修で共通理解を図るなど、どの教科、どの先生でも同様の学習展開で児童が学ぶことができるよう努めた。 ・授業が分かりやすいと肯定的な児童は9割、ものごとを最後までやり遂げて嬉しかった経験がある児童は8割を超えており、児童は安心して学ぶことができている様子である。 ・学級崩壊もなく、児童は落ち着いて学校生活を送っている。	A	・子供が落ち着いて過ごせるよう最大限の配慮がされている。 ・学習内容も経験の差がないようシステム化されている、同じ授業が受けられるのが良い。教員・児童双方にとって、大きなメリットといえる。	A	・学級崩壊はなく、授業が分かりやすい、困ったときに相談できる大人がいるなど、安心して学校生活を送っている児童は9割を超えている。 ・昨年度に続き、9割の児童が学校のルールを守っていると回答し、規範意識は高い。	A	・学校としてのルール、授業のすすめ方があれば、どの子供たちも迷うことなく、安心して学校生活が送れると思う。	・来年度も全校でユニバーサルデザインの板書作りを行い、教員が変わっても児童が見通しをもって学ぶことができるようにする。
	・エンカレッジルームの活用による不登校の防止 ・副籍交流及び共同学習の実施・充実	・空き時間の教員をエンカレッジ当番として配置 ・エンカレッジルームの児童・保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会等でエンカレッジルームを紹介	A	A	A	・空き時間の教員でエンカレッジ当番を配置したり、別室指導支援員を毎日配置したりすることで、毎日、効果的に活用されている。12名の児童が利用しており、安心できる居場所となっている。 ・3学期、3年生に理解教育を行う予定。	A	・不登校児童数が目に見える形で減っていることが素晴らしい。 ・一人も取りこぼさないよう、職員が配置されている。一部に負担が偏らないよう考えられている。	A	・3部屋のエンカレッジルームは、常時有効活用され、児童の安心できる居場所となっている。教員によるエンカレッジ当番も定着し、支援が必要なときに協力することができた。 ・別室支援員との連携が軌道に乗り、不登校傾向の児童が学校へ足を運べるようになった。	A	・いろいろな子供たちに寄り添い、対応していただいていると感じている。 ・子供だけでなく、保護者や地域にも、エンカレッジについて紹介していければと思う。	・エンカレッジルームの活用の仕方について次年度も教職員全体で理解を深め、担当教員を中心に、校内の体制を整える。 ・エンカレッジルームについて、保護者にも周知する。

<p>地域社会に開かれた学校づくりの実現</p>	<p>＜地域を生かした教育の推進＞ ○地域の自然や人材を活用した教育活動の実施</p>	<p>・PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム…各学年1回 ・地域を活用した学習…各学年1回 ・学校応援団の活用</p>	<p>・児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割</p>	A	A	A	<p>・児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童は9割に達している。 ・各学年とも、ふるさと学習プログラムの計画が立ち、3学期までに全学年で実施予定である。 ・地域を活用した学習について、1～4年生は、地域に出て町探検や自然観察を行った。2学期に、5年生は稲作についてを、6年生はSDGsの活動で地域人材や地域の環境を生かして学習している。 ・学校応援団グリーンボランティア等の活躍により、学校の敷地内では常に動植物が生き生きと育ち、学習に活用された。</p>	A	<p>・各学年にプログラムされている、ふるさと学習がとても充実している。日本文化、SDGsなどに触れ、楽しく学べる機会となっている。 ・子供たちが社会の課題について大人以上に理解していると感じる。優しい大人に成長すると期待がもてた</p>	A	<p>・8割を超える教員が地域やPTAの行事に参加し、地域との連携に尽力した。 ・各学年とも、ふるさと学習を1回、地域を活用した学習を年1回以上、実施できた。 ・児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童が9割を上回り、ふるさとを大切に思う気持ちが育っている。 ・学校応援団グリーンボランティア等と教員が連携でき、学校の動植物が生き生きと育ち、学習に活用された。</p>	A	<p>・1年生から6年生まで、地域にねざした学習ができているのは素晴らしい。 ・自然を大切にすることを育てられると良いと願っている。</p>	<p>・PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラムや、地域資源を活用した学習を来年度の教育課程にも位置付け、継続して連携ができるようにする。</p>
<p>不登校・いじめ対応の充実</p>	<p>○いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実</p>	<p>・いじめ未然防止授業…各学期1回以上 ・いじめ防止「東っこ行動宣言」の作成掲示…通年 ・SOSの出し方指導…5年生1回 ・いじめ・体罰防止の校長講話、児童アンケート…年3回 ・学校いじめ防止基本方針の全体共有…年3回 ・SCの全員面接…5学年 ・SSWの活用…全学年 ・「学級SNSルール」「東小子どもルールブック」「東小家庭学習の手引き」「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用…年3回 ・情報モラルについての学習…各学年1回以上 ・挨拶マスター、学年単位のあいさつ運動…年2回</p>	<p>・いじめの早期解決。継続0%。 ・不登校継続数、昨年度比減少 ・児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答が9割</p>	B	A	B	<p>・いじめ未然防止授業…1学期1回以上実施。 ・いじめ防止「東っこ行動宣言」を6月に作成し、年内まで掲示予定。 ・SOSの出し方指導…5年生が10月の学校公開で実施。 ・いじめ・体罰防止の校長講話、児童アンケート1学期実施し、指導した。校長面接は●件。 ・学校いじめ防止基本方針の全体共有…6、11月に実施。 ・SCの全員面接…5学年で実施。 ・SSWの活用…全学年で必要に応じて活用。 ・「学級SNSルール」「東小子どもルールブック」「東小家庭学習の手引き」「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用…年3回のうち、2回実施。 ・挨拶マスター、学年単位のあいさつ運動…年2回実施した。児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答は9割を達成。個人だけでなく、クラス単位の取組を行い、児童の意欲を高めることができた。 ・4月からのいじめの認知件数は、2件である。本人や保護者からの訴えにより、いじめアンケートを待たずして早期に発見して聞き取りや指導を行い、継続して経過を観察している。</p>	A	<p>・一部不安要素はあると思うが、他校と比較してもトラブルは少なく、この児童数規模を考えると学校側の取り組みが効果的であると感じる。 ・いじめの問題は、対応する大人の課題が多いように感じる。 ・「隠すのではなく洗い出す」という姿勢はもとより、SCやSSWの活用が形だけに留まらずにしっかりと活用されている。 ・保護者への支援も、いじめの防止には大切な取り組みだと思う。</p>	A	<p>・いじめについては、年3回のふれあいアンケートなどで早期発見に努め、臨時のいじめ対策委員会を速やかに開くなど、早期解決に努めた。 ・あいさつマスターやあいさつ運動を年に2回実施し、児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答は年間を通じて9割を超えた。</p>	A	<p>・学校だけでなく、地域や保護者とも連携して取り組んでいくようにできればと思う。 ・いじめが起きた時の対応はもちろん大切だが、同時に未然に防ぐための方法も、子供たちを見守る大人として考えていきたい。</p>	<p>・いじめについては、今後も早期発見、早期対応ができるよう、教員と児童の関係を大切にし、いつでも、だれにでも相談してよいことを広く知らせる。また、年3回のふれあいアンケートを使って、自分から相談できない児童も見逃さないようにする。 ・来年度も全校で「あいさつマスター」に取り組み、意識を高める。</p>
<p>児童・生徒の生活・学習の充実</p>	<p>○子どもや生活指導連絡協議会の活用</p>	<p>・生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日</p>	<p>・不登校児童とSC、SSW連携率100%</p>	A	A	A	<p>・生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日に実施。 ・不登校傾向の児童は、SC、SSW、SS、別室指導支援員等と連携し、登校できる日数を増やしたり、週に1回程度、学校からのお手紙を届けるなどして学校との繋がりをもちてるようにしている。</p>	A	<p>・不登校児童へのバックアップ体制について、保護者に対してもっと周知しても良いと思う。</p>	A	<p>・生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日に実施できた。 ・不登校傾向の児童は、SC、SSW、SS、別室支援員等と連携し、登校を継続することができた。</p>	A	<p>・いろいろな方面からの支援に感謝している。 ・SSWなどの活動について、もう少し知ることができるといいと思う。</p>	<p>・不登校の兆候が見られたら生活指導夕会等で情報共有をし、SC、SSW、SS、別室支援員等との連携を検討して登校できる日数を増やせるように働きかける。</p>
<p>児童・生徒の生活・学習の充実</p>	<p>OL-GateやhyperQUの活用</p>	<p>・L-Gateを朝学活で活用。別室指導、自宅学習の児童も活用できるようにする。 ・hyper-QUの実施・分析、報告会…年2回</p>	<p>・L-GateやTeams等の活用により、担任と繋がる児童100%。 ・学校満足度調査(Q-U)による満足群の割合が全国平均を超える学級9割</p>	B	A	B	<p>・hyper-QUの実施・分析、報告会…1回実施。 ・学校満足度調査(hyper-QU)による満足群の割合が全国平均を超える学級は8割に留まった。各クラスの分析と今後の取組状況を12月に確認する。</p>	A	<p>・Teamsチャットをマナー良く活用できていると思う。 ・学校独自の取り組みは、子供たちの心に敏感に寄り添う姿勢が感じられ、素晴らしい。ちょっとした違い、違和感を感じ取ることが子供たちの安心できる生活につながっていると感じる。</p>	A	<p>・12月のhyper-QUの結果、満足群の割合が全国平均を超えるクラスは17クラス中16クラスであり、特に1～3年生で学校生活に満足している児童の増加が見られた。</p>	A	<p>・毎日の子供たちの様子を見ていただけることに安心している。 ・子供たちの変化に気付く一助になればよいと思う。</p>	<p>・来年度もL-Gateやhyper-QUを実施し、各学級のクラスの様子を共有すると共に、分析結果を学級経営に生かす。</p>
<p>地域社会に開かれた学校づくりの実現</p>	<p>＜自校の取組の積極的な発信＞ ○学校ホームページの充実等・tetoruを使った情報の発信 ○学校公開の実施・充実</p>	<p>・学校日より、学校日記などの適宜更新。 ・tetoruによる情報発信 ・学校公開、年3回の実施</p>	<p>・保護者アンケートで、学校は保護者に適宜情報を発信していると思うかについて肯定的な回答8割</p>	A	A	A	<p>・学校日より、学校日記などが適宜更新されており、今年度のアクセス数は65,437件である。(11月27日現在) ・tetoruによる情報発信も、効果的になされている。 ・学校公開の年3回のうち、2回実施。 ・保護者アンケートで、学校は保護者に適宜情報を発信していると思うかについて肯定的な回答は9割を超えている。</p>	A	<p>・いつもたくさん情報公開に感謝している。 ・実際にtetoruでの情報発信では、細やかな周知をされていると感じる。顔の見える、会話ができる地域の仲間に参加させていただき、大変有意義な時間となっている。</p>	A	<p>・学校日より、学校日記のまめな更新により、今年度のアクセス数は81,667件に上がった。(2月13日現在) ・感染予防のため、2月の学校公開は中止となったが、2回は実施できた。 ・学校の情報発信については、肯定的な回答をした保護者は9割を超えた。</p>	A	<p>・いつもたよりをいただいて感謝している。 ・学校公開では、これからも学校の様子を地域や家庭に伝えていってほしい。</p>	<p>・来年度は、土曜授業でいじめ防止の道徳授業やイングリッシュタイムを実施し、教育活動のさらなる充実を図る。また、振替休業日を翌月曜日以外にも設け、専科の授業時数を確保する。</p>
<p>地域社会に開かれた学校づくりの実現</p>	<p>＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善</p>	<p>・年3回の学校評議員会の開催、年2回の学校関係者評価の実施 ・年末年始に次年度の改善事項について管理職・教員らで検討</p>	<p>・学校評議員による学校評価で肯定的な回答8割 ・教員アンケートで昨年度の反省が生かされているに肯定的な回答8割</p>	A	A	A	<p>・学校評議員会は、年3回のうち6月と11月の2回実施。 ・昨年度の学校評価で出た改善事項は、今年度の実施案等に繋ぎられている。 ・今年度の改善点も教員アンケートは現在実施中。</p>	A	<p>・わかりやすく説明をいただき、感謝している。 ・各回、何を伝えようとしているのか、毎回しっかり準備をされていて、とても分かりやすい。地域としても参考になる情報をいただいている。</p>	A	<p>・学校評議員会を年3回、学校関係者評価を年2回実施できた。 ・教員アンケートで昨年度の反省が生かされていると、肯定的な回答は8割を達成し、改善がなされている。</p>	A	<p>・今後も学校との連携をとっていけるようにしたい。</p>	<p>・教職員や学校評議員、保護者や地域から出た反省を次年度に引継ぎ、改善する。</p>
<p>教育の特色ある展開</p>	<p>＜小中連携教育の推進＞ ○「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実</p>	<p>・連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議…年3回 ・うち6年生の体験授業・部活体験の実施連携…年1回</p>	<p>・児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割</p>	B	A	A	<p>・連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議…年3回のうち2回実施。そのうち1回は、6年生の体験授業・部活体験。 ・児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)は昨年度の6割から8割に伸びた。学習面の安定が、進学希望につながっていると考えられる。</p>	A	<p>・PTA活動を通して、保護者同士の連携実現に向け模索していきたい。 ・密な連携が子供たちの成長には欠かせないと思っている。 ・鹿骨地区の連携は、地区全体で子供たちを育てる形となっており、保護者の方々も安心できていると感じている。</p>	A	<p>・近隣の小中学校と連携し、年に3回の小中連携会を開催することができた。 ・SDGsの活動を始め校内外の様々な行事を経験して自信が付いたことにより、児童アンケートで中学生になることに希望をもつ6年生は9割を超えている。</p>	A	<p>・小・中の連携により、子供達の進級(進学)が円滑に行われ、子供たちにとっても安心材料となる。部活体験など、イメージがわいて良い取り組みだと思う。</p>	<p>・来年度も小中連携会を年3回設け、6年生が中学生になることに、不安なく、希望がもてるよう連携する。</p>
<p>教育の特色ある展開</p>	<p>＜SDGs教育の充実＞ ○持続可能な社会を創造することを旨とする教育活動の実施</p>	<p>・もったいない運動の取組実施全学年 ・環境を考える学習：各学年1回以上 ・6年生のSDGs実践及び発表…年1回</p>	<p>・児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割</p>	A	A	A	<p>・各委員会の発信で、もったいない運動(ペロリ賞)や、ごみの分別、リサイクルに取り組んだ。 ・児童アンケートで、もったいない運動への参加に肯定的な回答8割を達成。 ・自然や環境問題を考える学習：各学年1回以上実施。(篠崎公園) ・6年生のSDGs実践及び発表を学習発表会で実施。</p>	A	<p>・SDGsが言葉だけでなく、実際に考え、どうしたら良くなるのか、何ができるのかを子供たちから発信しているのが素晴らしい。 ・虐待の問題は家庭内のことで見えにくい、子供たちに助け合える環境を作っていると感じた。子供たちに自分を愛せる人になってほしい。</p>	A	<p>・もったいない運動(ペロリ賞)やごみの分別、リサイクルに全校で取り組むことができた。 ・6年生はSDGs実践を下級生や保護者、区内外の小学校に向けて発信することができた。校内では、下級生や保護者、教職員も活動に参加している。 ・児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答は8割を達成した。</p>	A	<p>・子供たちがすすんで活動しているのが素晴らしい。これから物も大切にすることを育ててほしい。</p>	<p>・来年度も環境教育やSDGsの活動を教育課程に位置付け、持続可能な社会を創造しようとする児童の育成を目指す。 ・SDGsとユニセフの募金活動の時期が重ならないよう配慮する。</p>